



クラシック LAN、リリース
12.1.3

目次

新機能と更新情報.....	1
クラシック LAN ファブリックの作成.....	2
一般的なパラメータ.....	2
高度.....	4
リソース.....	5
構成 バックアップ.....	5
ブートストラップ.....	8
Flow Monitor.....	11
著作権.....	15

新機能と更新情報

次の表は、この最新リリースまでの主な変更点の概要を示したものです。ただし、今リリースまでの変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

リリースバージョン	特長	説明
NDFC リリース 12.1.3	整理し直したコンテンツ	このドキュメント内のコンテンツは元来 『Cisco NDFC-Fabric Controller Configuration Guide』 または 『Cisco NDFC-SAN Controller Configuration Guide』 で提供されました。 リリース 12.1.3 以降、このコンテンツは現在、このドキュメントでのみ提供されており、これらのドキュメントでは提供されなくなっています。

クラシック LAN ファブリックの作成

このトピックでは、データセンター VXLAN EVPN テンプレートを使用して新しい VXLAN EVPN ファブリックを作成する方法について説明し、IPv4 アンダーレイについて説明します。IPv6 アンダーレイサポートの詳細については、[Cisco NDFC ファブリックコントローラ構成ガイド (Cisco NDFC Fabric Controller Configuration Guide)] の [イーージー ファブリックの IPv6 アンダーレイ サポート (IPv6 Underlay Support for Easy Fabric)] を参照してください。

1. [ローカルエリアネットワーク ファブリック (LAN ファブリック)] ページに移動します：

[ローカルエリアネットワーク (LAN)] > [ファブリック (Fabric)]

2. [アクション (Action)] > [ファブリックを作成 (Create Fabric)] をクリックします。

[ファブリックの作成 (Create Fabric)] ウィンドウが表示されます。

3. [ファブリック名 (Fabric Name)] フィールドにファブリックの一意の名前を入力し、[ファブリックの選択 (Choose Fabric)] をクリックします。

使用可能なすべてのファブリック テンプレートのリストが表示されます。

4. ファブリック テンプレートの使用可能なリストから、クラシック LAN テンプレートを選択し、[選択 (Select)] をクリックします。

5. ファブリックを作成するために必要なフィールド値を入力します。

画面のタブとそのフィールドについては、次のセクションで説明されています。オーバーレイおよびアンダーレイ ネットワーク パラメータは、これらのタブに含まれています。

- [一般的なパラメータ](#)
- [詳細設定](#)
- [関連資料](#)
- [コンフィギュレーションのバックアップ](#)
- [ブートストラップ](#)
- [Flow Monitor](#)

6. 必要な構成が完了したら [保存 (Save)] をクリックします。

- [ファブリック (Fabric)] をクリックして、スライドイン ペインに概要を表示します。
- [起動 (Launch)] アイコンをクリックして、[ファブリックの概要 (Fabric Overview)] を表示します。

一般的なパラメータ

デフォルトでは、[全般パラメータ (General Parameters)] タブが表示されます。次のテーブルにこのタブのフィールドが説明されています。

フィールド	説明
ファブリック モニター モード	ファブリックのみをモニターし、構成を展開しない場合は、このチェックボックスをオンにします。

フィールド	説明
パフォーマンス モニタリングを有効化	ファブリックのパフォーマンスをモニタするには、このチェックボックスをオンにします。

次の作業：必要に応じて別のタブで構成を完了するか、このファブリックに必要な設定が完了したら [保存 (Save)] をクリックします。

高度

次のテーブルに[詳細 (Advanced)] タブのフィールドが説明されています。ほとんどのフィールドは、シスコが推奨するベスト プラクティスの構成に基づいて自動的に生成されますが、必要に応じてフィールドを更新できます。

フィールド	説明
電源モード	適切な電源モードを選択します。
MPLS ハンドオフの有効化	MPLS ハンドオフ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
アンダーレイ MPLS ループバック識別子	ループバック識別子を指定します。デフォルト値は 101 です。
AAA IP 認証を有効化します。	IP 認証がリモート認証サーバーで有効になっている場合に、AAA IP 認証を有効にします。これは、スイッチにアクセスできる IP アドレスを顧客が厳密に制御できるシナリオで Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ をサポートするために必要です。
トラップ ホストとしての NDFC の有効化	SNMP トラップの接続先として Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。通常、ネイティブ HA Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラの導入では、eth1 VIP IP アドレスがスイッチの SNMP トラップ宛先として設定されます。デフォルトでは、このチェックボックスは有効になっていません。
ブートストラップされたスイッチの CDP P の有効化	管理インターフェイスで CDP を有効化します。
NX-API を有効化	HTTPS での NX-API の有効化を指定します。
NX-API HTTPS ポート 数量	[NX-APIの有効化 (Enable NX-API)] オプションが有効になっている場合、フィールドがアクティブになります。 NX-API HTTPS ポート番号を入力します。デフォルト値は 443 です。

HTTP NX-API を有効化

HTTP での NX-API の有効化を指定します。HTTP を使用するには、**[NX-API の有効化 (Enable NX-API)]** チェック ボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオンになっています。このチェックボックスをオフにすると、エンドポイント ロケータ (EPL)、レイヤ 4～レイヤ 7 サービス (L4～L7 サービス)、VXLAN OAM など、NX-API を使用し、Cisco Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ がサポートするアプリケーションは、HTTP ではなく HTTPS の使用を開始します。



[NX-API の有効化 (Enable NX-API)] チェックボックスをオンにし、

[HTTP での NX-API の有効化 (Enable NX-API on HTTP)] チェックボックスをオンにすると、アプリケーションは HTTP を使用します。

フィールド	説明
NX-API HTTP ポート 数量	<p>[HTTP NX-APIの有効化 (Enable NX-API)] オプションが有効になっている場合、フィールドがアクティブになります。</p> <p>NX-API HTTPS ポート番号を入力します。デフォルト値は 80 です。</p>
インバンド管理	<p>クラシック ローカル エリア ネットワーク (LAN) ファブリックの場合、このノブを使用すると Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラは、インバンド接続 (スイッチ ループバック、ルーテッド、または SVI インターフェイス経由で到達可能) でのスイッチのインポートおよび管理が可能になり、またアウトオブバンド接続 (スイッチ mgmt0 インターフェイス経由で到達可能) でのスイッチの管理が可能になります。唯一の要件は、インバンド管理対象スイッチの場合、Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラから Nexus ダッシュボード データを介してスイッチに IP が到達可能であることです。インバンド管理を有効にした後、検出中に、インバンド管理を使用してインポートするすべてのスイッチの IP を指定し、最大ホップ数を 0 に設定します。Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラは、インバンド管理されたスイッチ IP が Nexus ダッシュボード データ インターフェイスを介して到達可能であることを検証する事前チェックを行います。事前チェックをパスすると、Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラはインターフェイスが属する VRF に加えて、指定された検出 IP を持つそのスイッチ上のインターフェイスを検出し、学習します。スイッチのインポート/検出のプロセスの一部として、この情報は Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラに入力される目的のベースラインにキャプチャされます。詳細については、『Cisco NDFC Fabric Controller Configuration Guide』の「Inband Management in External Fabrics and LAN Classic Fabrics」を参照してください。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p> ブートストラップまたは POAP は、アウトオブバンド接続、つまりスイッチ mgmt0 を介して到達可能なスイッチでのみサポートされます。Nexus のさまざまな POAP サービスは、通常、eth1 またはアウトオブバンド インターフェイスにバインドされます。Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ eth0 / eth1 インターフェイスが同じ IP サブネットに存在するシナリオでは、POAP サービスは両方のインターフェイスにバインドされます。</p> </div>
高精度時間プロトコル (PTP) を有効化	<p>ファブリック全体で PTP を有効化にします。このチェックボックスをチェックすると、PTP はグローバルで、およびコア向きのインターフェイスで有効化されます。また、[PTP 送信元ループバック ID (PTP Source Loopback Id)] および [PTP ドメイン ID (PTP Domain Id)] フィールドが編集可能になります。詳細については、『Cisco NDFC ファブリック コントローラ構成ガイド』の「Easy ファブリックの精密時間プロトコル」を参照してください。</p>

フィールド	説明
PTP送信元ループバック識別子	<p>すべての PTP パケットの送信元 IP アドレスとして使用されるループバック インターフェイス ID ループバックを指定します。有効な値の範囲は 0 ~ 1023 です。PTP ループバック ID を RP、ファントム RP、NVE、または MPLS ループバック ID と同じにすることはできません。そうでない場合は、エラーが生成されます。PTP ループバック ID は、BGP ループバック または Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラから作成された ユーザー定義ループバックと同じにすることができます。</p> <p>構成を展開中に PTP ループバック識別子が見つからない場合は、次のエラーが生成されます：</p> <p>PTP 送信元 IP に使用するループバック インターフェイスが見つかりません。PTP 機能を有効にするには、すべてのデバイスで PTP ループバック インターフェイスを作成します。</p>
PTP ドメイン識別子	単一のネットワーク上の PTP ドメイン ID を指定します。有効な値の範囲は 0 ~ 127 です。
ファブリック フリーフォーム	この自由フォームフィールドを使用して、外部ファブリックで検出されたすべてのデバイスに構成をグローバルに適用できます。
AAA フリーフォーム構成	AAA 自由形式の構成を指定します。

次の作業：必要に応じて別のタブで構成を完了するか、このファブリックに必要な設定が完了したら [保存 (Save)] をクリックします。

リソース

[リソース (Resources)] タブのフィールドについては、次の表で説明します。ほとんどのフィールドは、シスコが推奨するベスト プラクティスの構成に基づいて自動的に生成されますが、必要に応じてフィールドを更新できます。

フィールド	説明
サブインターフェイス Dot1q 範囲	L3 サブインターフェイスを使用する場合のサブインターフェイスの範囲を指定します。
アンダーレイ MPLS S ループバック IP 範囲	<p>アンダーレイ MPLS ループバック IP アドレス範囲を指定します。</p> <p>アンダーレイ ルーティング ループバックとアンダーレイ MPLS ループバック IP 範囲は一意的な範囲である必要があります。他のファブリックの IP 範囲と重複しないようにしてください。重複すると、VPNv4 ピ어링が起動しません。</p>

次の作業：必要に応じて別のタブで構成を完了するか、このファブリックに必要な設定が完了したら [保存 (Save)] をクリックします。

構成 バックアップ

[構成バックアップ (Configuration Backup)] タブのフィールドについては、次の表で説明しま

す。ほとんどのフィールドは、シスコが推奨するベスト プラクティスの構成に基づいて自動的に生成されますが、必要に応じてフィールドを更新できます。

フィールド	説明
毎時ファブリックバックアップ	<p>ファブリック構成とIntentの毎時バックアップを有効にします。</p> <p>時間単位のバックアップは、その時間の最初の 10 分間にトリガーされます。</p>
スケジュール済み ファブリック バックアップ	<p>毎日のバックアップを有効にします。このバックアップは、構成のコンプライアンスによって追跡されないファブリック デバイスの実行構成の変更を追跡します。</p>
予定時刻	<p>スケジュールされたバックアップ時間を 24 時間フォーマットで指定します。[スケジュール済みファブリック バックアップ (Scheduled Fabric Backup)] チェックボックスをオンにすると、このフィールドが有効になります。</p> <p>両方のチェックボックスをオンにして、両方のバックアッププロセスを有効にします。[保存 (Save)] をクリックすると、バックアッププロセスが開始されます。</p> <p>スケジュールされたバックアップは、指定した時刻に最大 2 分の遅延でトリガーされます。スケジュールされたバックアップは、構成の展開ステータスに関係なくトリガーされます。</p> <p>NDFC で保持されるファブリック バックアップの数は、[設定 (Settings)] [サーバー設定 (Server Settings)] [LAN ファブリック (LAN Fabric)] [ファブリックあたりの最大バックアップ数 (Maximum Backups per Fabric)] によって決定されます。</p> <p>保持できるアーカイブ ファイルの数は、[サーバー プロパティ (Server Properties)] ウィンドウの [保持するデバイスあたりのアーカイブ ファイル数 (# Number of archived files per device to be retained:)] フィールドで設定します。</p> <div style="border-left: 1px solid gray; padding-left: 10px; margin-top: 20px;"> <p>即時バックアップをトリガーするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [LAN] > [トポロジ (Topology)] を選択します。 2. 特定のファブリック ボックス内をクリックします。[ファブリック トポロジ (fabric topology)] 画面が表示されます。 3. 画面左側の [アクション (Actions)] ペインで、[ファブリックの再同期 (Re-Sync Fabric)] をクリックします。 </div> <p>ファブリック トポロジ ウィンドウでファブリック バックアップを開始することもできます。[アクション (Actions)] ペインで [今すぐバックアップ (Backup Now)] をクリックします。</p>

次の作業 : 必要に応じて別のタブで構成を完了するか、このファブリックに必要な設定が完了したら [保存 (Save)] をクリックします。

ブートストラップ

次の表では、**ブートストラップ (Bootstrap)** タブのフィールドについて説明します。ほとんどのフィールドは、シスコが推奨するベスト プラクティスの構成に基づいて自動的に生成されますが、必要に応じてフィールドを更新できます。

フィールド	説明
ブートストラップの有効化	<p>ブートストラップ機能を有効にします。ブートストラップを使用すると、新しいデバイスを day-0 段階で簡単にインポートし、既存のファブリックに組み込むことができます。ブートストラップは NX-OS POAP 機能を活用します。</p> <p>Cisco NDFC リリース 12.1.1e 以降、スイッチを追加し、POAP 機能を使用するには、[ブートストラップを有効にする (Enable Bootstrap)] および [ローカル DHCP サーバーを有効にする (Enable Local DHCP Server)] チェックボックスをオンにします。詳細については、『Cisco NDFC-Fabric Controller Configuration Guide』の「Inband Management and Inband POAP in Easy Fabrics」を参照してください。</p> <p>ブートストラップをイネーブルにした後、次のいずれかの方法を使用して、DHCP サーバで IP アドレスの自動割り当てをイネーブルにできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [外部 DHCP サーバー (External DHCP Server)] : [スイッチ管理デフォルト ゲートウェイ (Switch Mgmt Default Gateway)] および [スイッチ管理 IP サブネットプレフィックス (Switch Mgmt IP Subnet Prefix)] フィールドに外部 DHCP サーバーに関する情報を入力します。 • [ローカル DHCP サーバー (Local DHCP Server)] : [ローカル DHCP サーバー (Local DHCP Server)] チェックボックスをオンにして、残りの必須フィールドに詳細を入力します。
インバンド POAP の有効化	<p>インバンド POAP を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <p>この オプションを有効にするには、[インバンド管理 (Inband Mgmt)] を [詳細 (Advanced)] タブで有効にする必要があります。</p> </div>
ローカル DHCP サーバーの有効化	<p>ローカル DHCP サーバを介した自動 IP アドレス割り当ての有効化を開始するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、[DHCP スコープ開始アドレス (DHCP Scope Start Address)] および [DHCP スコープ終了アドレス (DHCP Scope End Address)] フィールドが編集可能になります。</p> <p>このチェックボックスをオンにしない場合、Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラは自動 IP アドレス割り当てにリモートまたは外部DHCPサーバを使用します。</p>

DHCP バージョン	<p>このドロップダウンリストから [DHCPv4] または [DHCPv6] を選択します。[DHCPv4] を選択すると、[スイッチ管理 IPv6 サブネット プレフィックス (Switch Mgmt IPv6 Subnet Prefix)] フィールドは無効になります。DHCPv6 を選択すると、[スイッチ管理 IP サブネット プレフィックス (Switch Mgmt IP Subnet Prefix)] は無効になります。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <p>Cisco Nexus 9000 および 3000 シリーズ スイッチは、スイッチがレイヤ 2 に隣接 (eth1 またはアウトオブバンドサブネットは /64 である必要がある)、またサブネットに存在する L3 に隣接している場合にのみサポートします。/64 以外のサブネットプレフィックスはサポートされません。</p> </div>
フィールド	説明
DHCP 範囲開始アドレス および DHCP 範囲終了アドレス	スイッチアウトオブバンド POAP に使用される IP アドレス範囲の最初と最後の IP アドレスを指定します。
スイッチ管理デフォルトゲートウェイ	スイッチの管理 VRF のデフォルト ゲートウェイを指定します。
スイッチ管理 IP サブネットプレフィックス	<p>スイッチの Mgmt0 インターフェイスのプレフィックスを指定します。プレフィックスは 8 ~ 30 の間である必要があります。</p> <p>DHCP 範囲および管理デフォルト ゲートウェイ IP アドレスの仕様 (DHCP scope and management default gateway IP address specification) : 管理デフォルト ゲートウェイ IP アドレスを 10.0.1.1 に、サブネット マスクを 24 に指定した場合、DHCP 範囲が指定したサブネット、10.0.1.2 ~ 10.0.1.254 の範囲内であることを確認してください。</p>
AAA 構成の有効化	ブートストラップ後のデバイス起動構成の一部として [管理可能性 (Manageability)] タブから AAA 構成を含めます。

ブートストラップフリーフォーム構成	<p>(オプション) 必要に応じて追加のコマンドを入力します。たとえば、デバイスにプッシュするいくつかの追加の設定が必要であり、ポスト デバイス ブートストラップが使用可能である場合、このフィールドでキャプチャして要求のとおり保存することが可能です。デバイスの起動後、[ブートストラップフリーフォームの構成 (Bootstrap Freeform Config)] フィールドで定義された構成を含めることができます。</p> <p>running-config をコピーして [フリーフォームの設定 (freeform config)] フィールドに、NX-OS スイッチの実行設定に示されているように、正しいインデントでコピーアンドペーストします。freeform config は running config と一致する必要があります。詳細については、Cisco NDFC ファブリックコントローラ構成ガイドのファブリック スイッチでのフリーフォーム設定の有効化を参照してください。</p>
DHCPv4 マルチサブネット範囲	<p>1 行に 1 つのサブネット範囲を入力して、フィールドを指定します。[ローカル DHCP サーバーの有効化 (Enable Local DHCP Server)] チェックボックスをオンにすると、このフィールドは編集可能になります。</p> <p>範囲の形式は次のように定義される必要があります：</p> <p>[DHCP スコープ開始アドレス、DHCP スコープ終了アドレス、スイッチ管理デフォルト ゲートウェイ、スイッチ管理サブネット プレフィックス (DHCP Scope Start Address, DHCP Scope End Address, Switch Management Default Gateway, Switch Management Subnet Prefix)]</p> <p>例：10.6.0.2、10.6.0.9、16.0.0.1、24</p>

次の作業： 必要に応じて別のタブで構成を完了するか、このファブリックに必要な設定が完了したら [保存 (Save)] をクリックします。

Flow Monitor

[フロー モニター (Flow Monitor)] タブのフィールドについては、次の表で説明します。ほとんどのフィールドは

Cisco が推奨するベスト プラクティスの構成に基づいて自動的に生成されますが、必要に応じてフィールドを更新できます。

フィールド	説明
NetFlow を有効にする	<p>このチェック ボックスをオンにして、このファブリックの VTEP で Netflow を有効にします。デフォルトでは、Netflow は無効になっています。有効にすると、NetFlow 設定は、NetFlow をサポートするすべての VTEPS に適用されます。</p> <p> ファブリックで NetFlow が有効になっている場合、ダミーの <code>no_netflow</code> PTI を使用して、特定のスイッチで Netflow を使用しないように選択することができます。</p> <p><i>netflow</i> がファブリック レベルで有効になっていない場合、インターフェイス、ネットワーク、または <i>vrf</i> レベルで <i>netflow</i> を有効にすると、エラー メッセージが生成されます。Cisco NDFC の NetFlow サポートの詳細については、『Cisco NDFC Fabric Controller Configuration Guide』の「Netflow Support」を参照してください。</p>

[ネットワーク エクスポート (Netflow Exporter)] エリアで、[アクション (Actions)] > [追加 (Add)] の順にクリックして、1 つ以上の Netflow エクスポートを追加します。このエクスポートは、NetFlow データの受信側です。この画面のフィールドは次のとおりです。

- [エクスポート名 (Exporter Name)] - エクスポートの名前を指定します。
- [IP] - エクスポートの IP アドレスを指定します。
- [VRF] - エクスポートがルーティングされる VRF を指定します。
- [送信元インターフェイス (Source Interface)] - 送信元インターフェイス名を入力します。
- [UDP ポート (UDP Port)] - Netflow データがエクスポートされる UDP ポートを指定します。

[保存 (Save)] をクリックしてエクスポートを構成します。[キャンセル (Cancel)] をクリックして破棄します。既存のエクスポートを選択し、[アクション (Actions)] > [編集 (Edit)] または [アクション (Actions)] > [削除 (Delete)] を選択して、関連するアクションを実行することもできます。

[ネットワーク レコード (Netflow Exporter)] エリアで、[アクション (Actions)] > [追加 (Add)] の順にクリックして、1 つ以上のネットワーク レコードを追加します。この画面のフィールドは次のとおりです。

- [レコード名 (Record Name)] - レコードの名前を指定します。
- [レコード テンプレート (Record Template)] - レコードのテンプレートを指定します。レコード テンプレート名の 1 つを入力します。リリース 12.0.2 では、次の 2 つのレコード テンプレートを使用できます。カスタム Netflow レコード テンプレートを作成できます。テンプレート ライブラリに保存されているカスタム レコード テンプレートは、ここで使用できます。
 - `netflow_ipv4_record` - IPv4 レコード テンプレートを使用します。
 - `netflow_l2_record` - レイヤ 2 レコード テンプレートを使用します。

- [Is Layer2 Record] - レコードが **Layer2 Netflow** の場合は、このチェック ボックスをオンにします。

[**保存 (Save)**] をクリックしてレポートを構成します。 [**キャンセル (Cancel)**] をクリックして破棄します。 既存のレコードを選択し、 [**アクション (Actions)**] > [**編集 (Edit)**] または [**アクション (Actions)**] > [**削除 (Delete)**] を選択して、関連するアクションを実行することもできます。

[**Netflow モニター (Netflow Monitor)**] 領域で、 [**アクション (Actions)**] > [**追加 (Add)**] の順にクリックして、1つ以上の Netflow モニタを追加します。 この画面にある

フィールド：

- [モニター名 (Monitor Name)] - モニタの名前を指定します。
- [レコード名 (Record Name)] - モニタのレコードの名前を指定します。
- [エクスポート 1 の名前 (Exporter1 Name)] - ネットフロー モニタのエクスポートの名前を指定します。
- [エクスポート 2 の名前 (Exporter2 Name)] - (オプション) ネットフロー モニタの副次的なエクスポートの名前を指定します。

各 netflow モニタで参照されるレコード名とエクスポートは、「**Netflow レコード (Netflow Record)**」と「**Netflow エクスポート (Netflow Exporter)**」で定義する必要があります。

[**保存 (Save)**] をクリックして、モニタを構成します。[**キャンセル (Cancel)**] をクリックして破棄します。既存のモニタを選択し、[**アクション (Actions)**] > [**編集 (Edit)**] または [**アクション (Actions)**] > [**削除 (Delete)**] を選択して、関連するアクションを実行することもできます。

次の作業： 必要に応じて別のタブで構成を完了するか、このファブリックに必要な設定が完了したら [**保存 (Save)**] をクリックします。

著作権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザーインターフェイスにハードコードされている言語、RFP のドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

シスコおよびシスコのロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、<http://www.cisco.com/go/trademarks> を参照してください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。

© 2017-2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.